

地域おこし協力隊

かわむら かずのり
河村 和紀さん

Profile

1977年神奈川県生まれ。鬼石地域の地域振興や活性化のための活動を行う地域おこし協力隊員として5月1日に任用された。

鬼石を舞台に、地域と歩む挑戦

「地

域の人たちと深く関わり、自分に何ができるか試したいと考えたときに、協力隊員になるのが一番と思いました」と語る河村さん。地域おこし協力隊員として藤岡市で新たな一歩を踏み出し、地域の活性化に力を尽くしています。

神奈川県横浜市で生まれた河村さんは、父の転勤で奈良県や山梨県など各地を転々とした後、小学校から高校までを再び横浜市で過ごします。高校卒業後には専門学校でグラフィックデザインを学び、静止画の技術を基礎に、独学でアニメーションや映像制作のスキルを習得。卒業後はテレビやCMなどの制作現場で経験を積みながらフリーランスとして独立しました。

「映像制作では、人の思いや情熱を引き出し形にしていくことにやりがいを感じます」と語ります。これまでに、映像制作を通じて多くの人と出会い、その縁をきっかけにイベント企画やファシリテーション、プロデュースなど、数多くの仕事を手掛けてきました。

そんな河村さんに大きな転機が訪れたのは約3年前。友人がいる鬼石を訪れた際、地域のイベントなどを通じて人々と交流を重ね、自然や文化、住民の温かさに触れて深く感銘を受けたといいます。

「さまざまな立場の人が自然に集い、一丸となって活動する姿に強く引かれました。地域の一員として、一緒に文化を育みたいと思い移住を決めました」と話します。現在、河村さんは鬼石を盛り上げるため、さまざまなプロジェクトを計画しており、中でも鬼石の空き家を活用した「リトリート宿」の開設を目指しています。「自然を生かし、訪れる人に癒しの空間を提供したい。開設する場所はまだ未定ですが、他の協力隊員の皆と協力しながら、これまでの経験を生かして具体化していくことが成功の鍵だと思っています」と真剣な眼差しで語ってくれました。

「鬼石を起点に楽しみながら藤岡市を盛り上げたい」と河村さん。地域の人々と共に歩みながら挑戦をするその姿は、地域への深い愛情と確かな意志が感じられます。